



南畑用水の推定流路図
(国土地理院の地図から作成)

「南畑用水」を知っていますか？
江戸・元禄期にできた灌漑用水です。富士見市内では東大久保・長谷寺あたりから県道113号線に沿う歩道（暗きよ）が南畑用水跡です。
下南畑の氷川神社脇まで延びていました。

この用水掘削を主導したのが、当時、下南畑村の名主だった小山作兵衛でした。
南畑地域は川水を引くことが難しく雨水に頼るしかない。排水（悪水）も悪く農家は難儀していました。
作兵衛は川越の伊佐沼から水を引こうと考

小山作兵衛が主導



文・写真
山本 長春
(難波田城資料館 市民学芸員)



旧南畑用水だったとされる
国道113号線歩道

えたのです。とはいえず用水路は延長約12キロに及ぶ大工事です。
作兵衛は川越など近郷の24ヶ村と相談し、自ら惣代となり川越藩主から許可を得ます。
農民総出で元禄6年（1693年）頃に完成。すごいものです。
「小山用水」「作兵衛堀」とも呼ばれます。

南畑下戸に酒三升

伝承があります。酒豪の作兵衛は工事の間、完全に断酒しました。
竣工祝いの席で、川越藩主・松平信輝が酒をふるまうと大盃を飲み干すこと三度。
この逸話は絵本や紙芝居になりテレビ埼玉でも紹介されました。
小山家の現当主・勇次氏がビデオを大事に保管しています。
その後、用水は枯れ盗水に遭うなどして、南畑地域では使われなくなりしました。

用水跡をたどると

話はこれで終わりません。



紙芝居『作べえ堀』の表紙
(難波田城資料館・「わんだー民話らんど」作、しんどうかおる絵)

筆者は1年前、一日かけて伊佐沼から南畑まで用水跡をたどってみました。
まず訪れたのが伊佐沼そばにある荒川右岸用排水土地改良区の事務所。同区が管轄する用排水路系統図に驚きました。川越の久下戸などではいまも当時の用水路を発展させ田を潤しています。「南畑用水」の名も残っています。330年もの時を超え生き続けているのです。
南畑地域は、「コシヒカリ」「彩のきずな」などをつくる県内有数の米どころ。先人たちの営みを忘れてはなりません。

【参考】

『田んぼ今昔―耕地改良のあゆみ―』
(難波田城資料館刊)
『荒川右岸土地改良区誌』
(阿部徳之助編)